

1 単元名 ALTの先生に温泉津小の先生を紹介しよう
～Unit5 She can run fast. He can jump high.～

2 単元目標

- 伝える相手に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことを紹介しようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 自分や第三者について、できることやできないことを紹介する表現に慣れ親しむ。
(外国語への慣れ親しみ)
- 自分や第三者についての言い方、できることやできないことの言い方に違いがあることに気付く。
(言語や文化に関する気付き)

3 単元の評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・伝える相手に配慮しながら、自分や第三者についてできることやできないことを紹介しようとする。

【外国語への慣れ親しみ】

- ・自分や第三者について、できることやできないことを紹介する表現を聞いたり言ったりしている。

【言語や文化に関する気付き】

- ・自分や第三者を表す表現に違いがあることや、できることできないことの言い方の違いに気付く。

4 基盤

○児童観

〈個人情報保護のため省略〉

○教材観

本単元では自分や第三者について、できることやできないことを伝え合う。この時期の児童は自分と周囲との違いを意識し、ときには劣等感を感じてしまうこともあるだろう。このような発達段階にある児童にとってスポーツや料理、楽器の演奏など技能としてできることだけではなく、人のために自分は何ができるかという価値への気付きを期待できる題材でもある。

英語という壁を挟むことで、紹介する人物についてどのように表現すればよいか、よりよく伝えるためにどのような情報を知らせると良いのか限られた語彙の中から適切だと思う言葉を選ぶ言語における思考活動も行われるだろう。

○指導観

単元のゴールではALTに校内の先生の「できること、できないこと」をクイズ形式で紹介する。校内の先生について知ってもらうためにALTにどんな内容を伝えると分かりやすいか考え、相手意識を持って伝えようとする児童の姿を目指したい。校内の先生は児童が知っている人物であり、できることやできないことについて予想を立てやすいだろう。先生へのインタビューでは、単なる情報収集で終わることがないようにしたい。そのために自分ができることやできないことについてこの先生はどうだろうかと予想を立てインタビューを行う。発表ではジェスチャーを加えることや大切ところを強くはっきり発音すること、相手の反応を確かめ質問を入れること等、伝える相手への配慮について児童の具体的な気付きを引き出し

ながら行いたい。

このような学習経験を通して自分本位の伝え方ではなく、一人ひとりが相手への心配り気配りができる集団へ成長する一助となってほしい。

第1時では、HRT のできること、できないことについてやり取りをする場面の中で聞き、表現の仕方を理解できるようにする。そしてALTに校内の先生を紹介するという単元のゴールについて知る。

第2時では、チャンツやゲーム活動を通して、何度も聞いたり言ったりして、できること、できないこと、動作を表す表現に慣れ親しむ。

第3時では、まず前時を振り返り尋ね方や答え方を聞いたり言ったりする活動を行う。次にアクティビティーの結果を用いた教師が行うクラスの児童紹介を聞き、he, she の言い方の違いに気付かせたい。そこで男子と女子の写真を黒板に対比的に貼っていく。初めは何気なく見ているであろうが、児童にどちらに貼るとよいかをたずね、やり取りをしながら he と she の違いに気付かせたい。次にHRTがALTを紹介する“Who am I?”クイズを行い、単元のゴールへ具体的な見通しを持てるようにする。単に発表するのではなく、質問したり児童が答えたりする活動を行き来して第三者を紹介する表現に慣れ親しませたい。

第4時ではインタビューの準備を行う。児童が紹介したい先生を決めるが、他のペアと重ならないよう配慮する。ワークシートにインタビューする先生の名前をローマ字で記入することや、4線にはHe / She、尋ねる文を書き写すことを行う。そして、その先生のできることやできないことについて予想し、交互に尋ね合う。最後の質問でWhat else can you do? と尋ねるようにし、児童もその先生の新たな一面が発見できるとともに、紹介の際、その先生らしさを伝えられるように準備をする。

第5時は、ペアでインタビュー結果を整理し紹介の準備を行う。例を参考に紹介する先生のできることとできないことを書き写す。そしてALTへ校内の先生を紹介することを再確認し、どんなことを伝えるとよいか考えさせる。やみくもにALTを混乱させ、答えが分からないクイズのようになっていないか見直すことで、自分本位の伝え方にならないよう配慮させる。

本時となる第6時では、ALTに校内の先生や自分のできることやできないことを紹介する。校内の先生のできることやできないことはWho is this? クイズの形式で紹介し、どの先生かを予想してもらう。また、先生紹介の後に続いて自分のことも伝えALTに質問してもらい答えるやり取りを行う。発表は一方的に話すのではなく、相手の反応を見ることなど相手へ配慮した話し方を意識させたい。そのために途中で中間評価を行い、伝える相手(ALT)への配慮として工夫していることを共有する。ここでは、これまでの学習を踏まえはっきり話すことや大切なところを強くはっきり発音すること、相手の反応を確かめることなど具体的な気付きを児童から引き出す。そして、伝え方だけではなく発表内容の良さについても全体で共有する。中間評価を通して、伝え方と聞き方の両方の質が高まるよう心がけたい。

5 言語材料・表現

○表現

(I / He / She) can (play soccer).

(I / He / She) can' t (cook).

Can you (sing well)?

Yes, (I / he / she) can. / No, (I / he / she) can' t.

○語彙

動作 play (the recorder / the piano / basketball, soccer, baseball, badminton, table tennis / kendama)

ride a (bicycle / unicycle)

swim, cook, skate, ski, dance, run fast, jump high, sing well,

do (sumo / judo / kendo / karate)

6 単元指導計画と評価計画

時	目標 (◆) と主な活動 (【】、○)	評価の重点			評価の観点<方法>	
		関	慣	気	評価規準	評価方法
1	<p>◆できることやできないことの言い方に違いがあることに気付く。</p> <p>【Jingle】 Animals Jingle</p> <p>○読み聞かせ From Head to Toe</p> <p>○Small Talk : 先生のできること、できないこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ can を使った表現について知る。 ・ 単元のゴールについて大まかに知る。 <p>【Let' s Watch and Think 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声のみを聞いてその人物が誰かを推測する。 <p>【Let' s Play】 p. 34・35</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者の話を聞いて誌面のどの動物化を推測して答える。 <p>【Let' s Chant】 Can you sing well?</p>			○	自分ができること、できないことを表す表現の違いに気付いている。	行動観察 振り返りカード分析
2	<p>◆できることやできないこと、動作を表す表現に慣れ親しむ。</p> <p>○読み聞かせ From Head to Toe</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 尋ね方を知る。 <p>【Let' s Chant】 Can you sing well?</p> <p>【Let' s Listen 1】 Who am I?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声を聞き、どの動物のことを言っているか、イラストの下に番号を記入する。 <p>【Let' s Play2】 ポインティングゲーム</p> <p>○キーフレーズゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I can ～. / I can' t ～. を使って行う。 <p>○カードインタビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動作カードを伏せておく。一人がめくり、そのほかの児童はできるかを尋ねる。めくった児童は Yes, I can. / No, I can' t. で答える。 			○	できる、できないという表現を聞いて、番号を記入している。	行動観察 記述分析 振り返りカード点検
3	<p>◆できること、できないことを聞いたり言ったりする。また、第三者の言い方には性別によって違いがあることに気付く。</p> <p>【Jingle】 Animals Jingle</p> <p>【Let' s Chant】 Can you sing well?</p> <p>【Activity 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで相手ができるかどうかを予想し5つ選んで質問を 			○ ○	性別による第三者の言い方の違いに気付いている。	発表観察 振り返りカード分析

	<p>する。</p> <p>【Activity 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに誌面にあることについてできるかどうかを尋ね、できる場合はサインをもらう。 <p>○Who is this? クイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の行うクラスの児童紹介を聞いて、he, she の言い方の違いに気付く。 ・先生クイズ (ALT) を行い紹介の仕方を知る。 <p>○he/she や can/can' t を書き写そう。</p>				<p>第三者について、できることやできないことを聞き取っている。</p>	<p>行動観察 振り返りカード点検</p>
4	<p>◆できるかどうかを尋ねたり答えたりするとともに、短い話を聞いて具体的な情報を聞き取る。</p> <p>【Let' s Chant】 Can you sing well?</p> <p>【Let' s Watch and Think 2】 前半</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョンとクリスティーナの会話を聞いて、誌面に○△を記入したり、指導者の質問に答えたりする。 <p>【Activity 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューする先生ができるかできないかを予想する。 ・「自分ができること」「自分ができないこと」「ALT が知りたいだろうこと」について質問を考える。 ・4線に He/ She, can を書き写す。 ・ペアで尋ねる文を交互に言い合い、より相手に分かりやすくするための話し方について相談する。 		○	<p>できることやできないことを含む短い話を聞き、具体的な情報を誌面に記入している。</p>	<p>行動観察 記述観察 振り返りカード点検</p>	
				<p>自分や相手のできること、できないことを聞いたり言ったりしている。</p>	<p>行動観察 振り返りカード点検</p>	
5	<p>◆できること、できないことを聞いたり言ったりする。また、第三者についてできることやできないことを聞き取る。</p> <p>【Let' s Chant】 Can you sing well?</p> <p>*オプション (he, she) バージョン</p> <p>○読み聞かせ What can you do?</p> <p>○ペアでインタビュー結果を整理しクイズの準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことも紹介内容に加える。 <p>【Let' s Watch and Think 2】 後半</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者についての紹介を聞いて大体的内容をとらえる。 ・さとの紹介を聞き、目線やジェスチャーなど伝え方の工夫に気付く。 ・反応を返すときの表現を知る。 <p>○ペアで自分のことも含め紹介の練習をする。</p>		○	<p>できることやできないことを尋ねたり答えたりしている。</p>	<p>行動観察 記述分析 振り返りカード点検</p>	

6 本 時	◆相手に配慮し、身近な第三者についてできることやできないことを、自分の考えも含めて紹介しようとする。 【Let' s Chant】 Can you sing well? *オプション (he, she) バージョン ○ALT への紹介 Who is this? ・紹介する先生のできることやできないこととあわせて自分のことについても言う。 ・聞き手はあいづちなど反応を示しながら聞く。	○		自分や第三者について、できることやできないことを紹介している。	行動観察 振り返りカード 点検
-------------	---	---	--	---------------------------------	-----------------------

※児童から教師へのインタビューは休み時間など、外国語活動の時間外で行う。

8 本時の展開(6/6)

○本時の目標

伝える相手に分かりやすく、自分や第三者についてできることやできないことを紹介しようとする。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

時間	○児童の活動、【】 主な活動	・指導者の活動、支援の内容 ◎評価〈方法〉	準備物
3	○あいさつをする。 本時のめあてを確認する。	・全体にあいさつをし、個別に数名の児童にあいさつする。 ・前時の振り返りから、本時のめあてを共有する。	
5	【Let' s Chant】 Can you sing well? *オプション (he, she) バージョン	・児童と一緒にチャンツを言い、使用表現を振り返る。	デジタル教材
3 2	○ALT への紹介クイズ (6 グループ) Who is this? S1: She can play soccer. S2: She can't swim 100 meters. S1: She can ski. Can you ski? S2: She can cook cake. Can you cook? S2: Who is this? Look! S1: I can play the piano. I can' t swim 100m. S2: I can ski. I can' t skate. ALT: Can you ○○? Do you like ○○? S1・S2: Yes, I can. / No, I can' t. Yes, I do. / No, I don' t. ・発表しない児童も ALT と一緒に発表を聞き、誰なのか予想をする。	・ALT に温泉津小の先生のことを知らうためのクイズであることを確認する。 ・中間評価を行う。 <u>話し方</u> ゆっくりはっきり話している。 ジェスチャーを加えている。 目線を配っている。 相手の反応を確認している。(OK?等)。 大切なところを強くはっきり発音している。 <u>聞き方</u> 英語で反応を返している。 うなずきや目線など動作で反応している。 <u>発表内容</u> 内容について良いと思うことを子どもから引き出し、全体で共有する。 ・適宜、聞いてみたいことはないかを児童に尋ね、児童相互のやり取りの場面をつくる。	先生の 写真 紹介カ ード

	(聞き手の反応例) Really? I see. Me too. Nice! Wow!	◎相手に分かりやすく伝えようとしている。 【関意態】〈行動観察・振り返りカード点検〉	
5	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを再確認したうえで記入させる。 ・HRT は発表の様子について評価言を与え、ALT は英語の運用力についてコメントする。 	振り返りカード

本時の評価

十分に満足できる姿	おおむね満足できる姿	支援が必要な児童への手立て
伝える相手に分かりやすく、自分や第三者についてできることやできないことを紹介している。	自分や第三者についてできることやできないことを紹介している。	自分や第三者について紹介できるよう一緒に言う。また、ALTの質問に答えられない時にはヒントを出し、やり取りができるようにする。